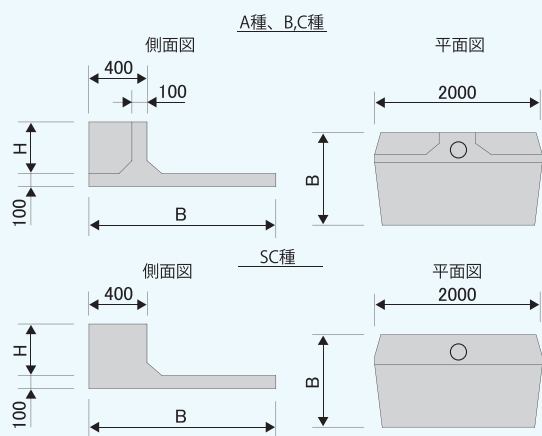
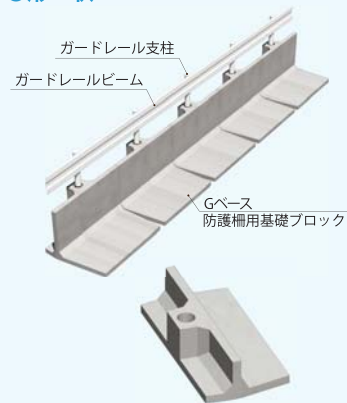


標準製品

●形状

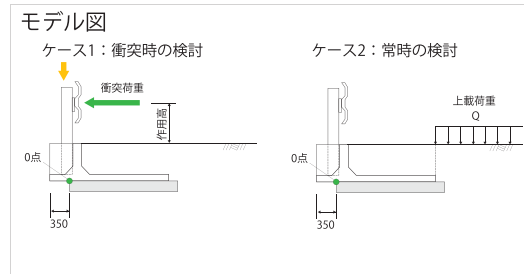


タイプ		H (mm)	防護柵の種別	B (mm)	参考質量 (kg)
直上タイプ	下部構造の天端直上に設置する場合	400	B,C種	1500	1015
			A種	1800	1170
			SC種	1900	1635
		500	B,C種	1500	1095
			A種	1800	1260
			SC種	1900	1825
	下部構造の直上に設置しない場合	400	B,C種	1000	795
			A種	1500	1040
			SC種	1500	1125
		500	B,C種	1000	875
			A種	1500	1125
			SC種	1500	1205
非直上タイプ	600	B,C種	1000	955	
		A種	1500	1205	
		SC種	1500	1295	
	700	B,C種	1000	1045	
		A種	1500	1295	
		SC種	1500	1295	

注) 塩害等特殊な条件用の特殊部材厚タイプも対応可能です。最寄のGネット工業会員社にお問い合わせください。

設計方法 防護柵設置基準

下部構造がある場合(直上)の設計は幅350mm(緩衝材300mm+発泡スチロール50mm)の範囲において、中空状態としてモデル化し行っています。



* 常時の設計は図のように仮想背面から上載荷重を影響させ、下部構造物に影響を与えないように中空状態もモデル化し行っています。

防護柵の種別	衝突荷重(kN)	作用高(m)
B,C種	30	0.600
A種	55	0.600
SC種	60	0.600

【参考文献】
 「防護柵の設置基準・同解説」
 (公社) 日本道路協会 平成28年12月発行
 「車両用防護柵標準仕様・同解説」
 (公社) 日本道路協会 平成16年3月発行
 「道路土工一擁壁工指針」
 (公社) 日本道路協会 平成24年7月発行

【参考文献】

防護柵の設置基準・同解説

車両用防護柵標準仕様・同解説



参考文献『車両用防護柵標準仕様・同解説』(P133)より

基礎の長さは、基礎の目地間を安定設計に用いる一連の長さとして計算を行うものとするが、基礎の長さが10mより長くなる場合については、10mを最大の長さとして計算を行うものとする。

Gベースは、基礎の長さを10mとして設計しております。